音楽療法が患者に対する看護師の関わりに与える影響

松本じゅん子

(長野県看護大学看護学部)

キーワード: 音楽療法, 看護師, 患者

Effects of music therapy on behaviors of nurses toward patients

Junko Matsumoto

(Nagano College of Nursing)

Key Words: Music therapy, Nurses, Patients

目的

これまで音楽療法による様々な効果が報告されており, 認知症患者を対象にした音楽療法では, 対象者が参加することで, リラックスし, 言語的コミュニケーション活動が増加することが示されている(梶原他, 2010). また, 入院患者と家族に対して実施した場合には, 患者だけでなく家族のストレスも低減したことが報告されている(中山他, 2008). さらに, 認知症患者の音楽療法に関わっていた看護師においては, 音楽療法によって, 患者への言葉掛けが多くなるなど, 関わり方にプラスの影響があることが示唆されている(秋山他, 2008). 看護師が患者と活動を共にしたことで感情を共有し, その結果, 患者のその人らしさに気づき, その人を中心とした看護を意識出来るようになったことが報告されている.

しかし, 他の疾患をもつ患者に対する看護師の関わりにおいては, 音楽療法による影響は明らかではない. そこで, 本研究では, 精神科病棟を対象に, 音楽療法による患者に対する看護師の関わりへの影響について検討する.

方法

(1) 音楽療法の実践内容についての質問紙調査

調査対象: 精神科病棟で音楽療法を実施している A 病院
調査内容: 秋山他 (2008) を参考に, 以下の項目を含む質問紙を作成した.

回答者の職種, 音楽療法の実施頻度, 音楽療法の対象者, 音楽療法に関わっている職種, 1 回の音楽療法の参加人数, 実施場所, 実施内容, 音楽療法実施時の配置図など.

(2) 音楽療法に関わる看護師への質問紙調査

調査対象: A 病院で音楽療法に関わっている看護師 1 名 (男性).

調査内容: 秋山他 (2008) を参考に, 以下の項目を含む質問紙を作成した.

勤務年数, 音楽療法に関わる頻度, 音楽療法に関わっている期間, どのような形で音楽療法に関わっているか, 関わるようになったきっかけ, 音楽療法に関わる以前の音楽療法に対するイメージ, 音楽療法に関わることによる看護姿勢の変化の有無やその具体的内容, 音楽療法前後での患者に対する気持ちの変化の有無とその具体的内容など.

(3) 音楽療法に関わる看護師へのインタビュー

調査対象: 上記の看護師 1 名.

調査内容: 質問紙の回答を元に, 以下のことを尋ねた.

音楽療法の参加者や音楽療法の内容, 音楽療法による患者に対する看護師の変化など

結果と考察

質問紙及び面接調査から以下のことが示された.

(1) 音楽療法の実践内容

音楽療法の実施回数は月に 1 回であり, 入院患者を対象に食堂兼ホールで実施していた (Figure1). 1 回の実施時間はおよそ 1 時間であり, 10 曲程度の曲を歌ったり演奏したりし

ていた (Figure2). 1 回の音楽療法で約 20 人の患者が参加し, 看護師 1 名のほか作業療法士 2 名が携わっていた.

(2) 音楽療法による看護師の影響 (質問紙)

調査対象の看護師は, 30 年以上病院に勤務しており, 11 年前から月に 1 回の頻度で音楽療法に携わっていた. 音楽療法中に患者の隣に付き添ったり, 一緒に楽器を演奏したり, 歌ったりして関わっていた. 音楽療法に関わったきっかけは, 精神科病棟に異動後に集団音楽療法を見て, 楽しそうな印象を抱いたことであった. 音楽療法に携わるようになったことで, 会話などで患者への接し方に変化があった. また, 音楽療法に携わるようになった前後で患者に対する気持ちにも変化があり, 患者が音楽で生き生きすることがわかり, 嬉しくなった.

(3) 音楽療法による看護師への影響 (面接)

音楽療法は患者と看護師が共に楽しむ時間であると同時に, 楽器を持ってリズムをとる姿やいつにない笑顔など, 普段見ることが出来ない患者の姿を見ることが出来る機会でもあった. また, 音楽療法を通して患者の趣味などを知ることにも出来た. さらに, 患者の中には処置を嫌がった時に, 歌いながら処置を行うと少しスムーズに処置を受けてくれた患者もいるなど, 音楽療法によって気付いたことを普段の関わりの中で生かすことが出来た.

以上のことから, 一事例ではあるが, 精神科においても, 音楽療法は患者に対する看護師の理解や積極的な関わりを促し, 双方の関係の構築にプラスの影響を与えると考えられた. 今後, より多くの病棟を対象に調べ, 音楽療法の効果を明らかにする必要があると考えられる.

Figure1 Arrangement of an instrument and patients on music therapy

- ① 発声練習(声出し)
 - ② 季節の歌
 - ③ リズムのある曲(タンバリンや鈴などの打楽器を使用すること)
 - ④ リクエスト曲
 - ⑤ ゆっくりとした曲
- ①と⑤は固定曲で、②～④は毎回変更

Figure2 Usual program of music therapy